使徒的聖書問答

G・T・ヘイウッド
藤遥　制作

第一部　霊から生れること

問一　人が神の国にはいるには、その前に何が必要だと、イエスは言われましたか。

だれでも、**水と霊とから生れ**なければ、神の国にはいることはできない（ヨハネ三・五）。

問二　それでは、人はどのようにして救われるのですか。

信じてバプテスマを受ける者は**救われる**（マルコ一六・一六）。

問三　門からはいらずに救われることはできますか。

イエスは言われる、「わたしは**門**である。わたしをとおって**はいる**者は**救われる**」。また、「だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」（ヨハネ一〇・九、一四・六）。

問四　イエスはご自分が門だと言われたのに、どうして『水と霊』を門とするのですか。

イエスは、ご自分がよい羊飼であると言われる。そして、羊飼は**門からはいる**と言われる（ヨハネ一〇・二、一一）。

問五　『水と霊』のバプテスマが門であるなら、イエスはいつ水と霊のバプテスマを受けられたのですか。

そのときイエスは、ガリラヤを出てヨルダン川に現れ、ヨハネのところにきて、バプテスマを受けようとされた。（中略）イエスは**バプテスマを受ける**とすぐ、水から上がられた。すると、見よ、天が開け、彼（ヨハネ）は、神の**御霊**がはとのように下って、彼の上にとどまるのを見た（マタイ三・一三、一六）。

問六　イエスを信じる者も、バプテスマを受けなければならないのですか。

自分の羊をみな出してしまうと、彼は羊の**先頭に立って**行く。羊はその声を知っているので、彼に**ついて行く**のである（ヨハネ一〇・四）。

問七　使徒たちは、ペンテコステの日の前に、水でバプテスマを受けていましたか。

イエスは弟子たち（十二人）とユダヤの地に行き、彼らと一緒にそこに滞在して、**バプテスマを授けて**おられた（ヨハネ三・二二）。

問八　イエスは、だれかに水でバプテスマを授けられましたか。

ヨハネの弟子たちはヨハネのところにきて言った、「先生、ごらん下さい。ヨルダンの向こうであなたと一緒にいたことがあり、そして、あなたがあかしをしておられた**あのかたが、バプテスマを授けて**います」（ヨハネ三・二六）。

問九　イエスは、十二弟子のほかの人にも、バプテスマを授けられましたか。

しかし、イエスみずからが**バプテスマをお授けになったのではなく**、その**弟子たち**であった（ヨハネ四・一〜二）。

問十　復活ののち、イエスは水と霊について何と言われましたか。

ヨハネは**水でバプテスマを授けた**が、あなたがたは間もなく**聖霊によって、バプテスマを授けられる**であろう（使徒一・五）。

問十一　天に上られる直前に、イエスは使徒たちに何をするよう告げられましたか。

全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。信じて**バプテスマを受ける**者は**救われる**（マルコ一六・一五〜一六）。

問十二　悔改めと罪のゆるしは、どの名によって宣べ伝えられなければならないと、イエスは言われましたか。

そして、**その名**によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる（ルカ二四・四七）。

問十三　ペンテコステの日に、ペテロはエルサレムで、悔改めと罪のゆるしをどのように宣べ伝え始めましたか。

すると、ペテロが答えた、「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、**イエス・キリストの名**によって、バプテスマを受

けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう」（使徒二・三八）。

問十四　その日、人々はペテロの言葉に従いましたか。

そこで、彼の勧めの言葉を受けいれた者たちは、**バプテスマを受けた**が、その日、仲間に加わったものが三千人ほどあった（使徒二・四一）。

問十五　エルサレムの人々のほかにも、イエスの名によってバプテスマを受けた人々はいましたか。

ピリポはサマリヤの町に下って行き、人々に宣べはじめた。ところが、ピリポが（中略）イエス・キリストの名について宣べ伝えるのを信じると、（中略）彼らは**主イエスの名**によってバプテスマを受けた（使徒八・五、一二、一五～一六）。

問十六　ガザの荒野で、ピリポはエチオピヤ人の宦官に何を宣べ伝えましたか。

そこでピリポは口を開き、この聖句から説き起して、**イエス**のことを宣べ伝えた（使徒八・二六～三五）。

問十七　ピリポの宣教を聞いて、宦官は何と言いましたか。

道を進んで行くうちに、水のある所にきたので、宦官が言った、「ここに**水**があります。わたしが**バプテスマを受ける**のに、なんのさしつかえがありますか」（使徒八・三六）。

問十八　宦官がバプテスマを受けたのち、何が起こりましたか。

ピリポと宦官と、ふたりとも、水の中に降りて行き、ピリポが宦官にバプテスマを授けた。ふたりが水から上がると、主の**霊**がピリポをさらって行ったので、宦官はもう彼を見ることができなかった。宦官は**よろこびながら**旅をつづけた（使徒八・三八～三九）。

問十九　サウロが「わたしは何をしたらよいのですか」と言ったとき、イエスは何と答えられましたか。

主は言われた、「さあ立って、町にはいって行きなさい。そうすれば、そこであなたの**なすべき**事が告げられるであろう」（使徒九・六）。

問二十　アナニヤはサウロのところに来たとき、何と言いましたか。

兄弟サウロよ、（中略）主イエスは、あなたが再び見えるようになるため、そして**聖霊**に満たされるために、わたしをここにおつかわしになったのです（使徒九・一七）。

問二十一　アナニヤは、水のバプテスマについて何か言いましたか。

すると、律法に忠実な（中略）アナニヤという人が、わたしのところにきて、そばに立ち、「兄弟サウロよ、見えるようになりなさい」と言った。（中略）「そこで今、なんのためらうことがあろうか。すぐ立って、み名をとなえて**バプテスマを受け、あなたの罪を洗い落しなさい**」（使徒二二・一二～一六）。

問二十二　サウロは、アナニヤの指示に従いましたか。

するとたちどころに、サウロの目から、うろこのようなものが落ちて、元どおり見えるようになった。そこで彼は立って**バプテスマを受けた**（使徒九・一八）。

問二十三　コルネリオとその家の者たちが聖霊を受けたのち、ペテロは何と言いましたか。

この人たちがわたしたちと同じように聖霊を受けたからには、彼らに**水でバプテスマを授ける**のを、だれがこばみ得ようか（使徒一〇・四七）。

問二十四　ペテロは彼らに、どの名によってバプテスマを受けるよう命じましたか。

ペテロはその人々に命じて、主の名によって**バプテスマを受けさせた**（使徒一〇・三六、四八）。

問二十五　パウロの宣教は、テアテラのルデヤにどのような働きをしましたか。

ところが、テアテラ市の紫布の商人で、神を敬うルデヤという婦人が聞いていた。主は彼女の心を開いて、パウロの**語ることに耳を傾けさせた**（使徒一六・一四）。

問二十六　ルデヤは、どのようにして主に忠実な者と認められましたか。

そして、この婦人もその家族も、共に**バプテスマを受けた**が、その時、彼女は「もし、わたしを主に忠実な者とお思いでしたら、どうぞ、わたしの家にきて泊

まって下さい」と懇望し、しいてわたしたちをつれて行った（使徒一六・一五）。

問二十七　ピリピの獄吏が「先生がた、わたしは救われるために、何をすべきでしょうか」とたずねたとき、パウロとシラスは何と言いましたか。

ふたりが言った、「主イエス・キリストを**信じなさい**。そうしたら、**あなたもあなたの家族も救われます**」（使徒一六・三一）。

問二十八　獄吏は次に、自分たちが信じたことを示すために何をしましたか。

彼は真夜中にもかかわらず、ふたりを引き取って、その打ち傷を洗ってやった。そして、その場で自分も家族も、ひとり残らず**バプテスマを受けた**（使徒一六・三三）。

問二十九　使徒パウロの宣教によって福音を聞いたとき、コリントの人々は何をしましたか。

会堂司クリスポは、その家族一同と共に主を信じた。また多くのコリント人も、パウロの話を聞いて**信じ**、ぞくぞくと**バプテスマを受けた**（使徒一八・七～八）。

問三十　エペソの弟子たちは、二度バプテスマを受けたのですか。

「では、だれの名によって**バプテスマを受けた**のか」と彼がきくと、彼らは「ヨハネの名による**バプテスマ**を受けました」と答えた。そこで、パウロが言った、「ヨハネは悔改めのバプテスマを授けたが、それによって、自分のあとに来るかた、すなわち、イエスを信じるように、人々に勧めたのである」。人々はこれを聞いて、**主イエスの名**による**バプテスマを受けた**（使徒一九・三～五）。

問三十一　ローマの弟子たちは、どのようにしてクリスチャンになったのですか。

あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかる**バプテスマを受けた**わたしたちは、彼の死にあずかる**バプテスマを受けた**のである。すなわち、わたしたちは、その死にあずかる**バプテスマ**によって、彼と共に葬られたのである（ローマ六・三～四）。

問三十二　使徒パウロは、ガラテヤの人々がどのようにしてキリストを着たと言いましたか。

キリストに合う**バプテスマを受けた**あなたがたは、皆キリストを着たのである（ガラテヤ三・二七）。

問三十三　コロサイの人々は、バプテスマによってキリストのうちに入れられたのですか。

あなたがたはまた、彼にあって、手によらない割礼を受けた。（中略）あなたがたは**バプテスマ**を受けて彼と共に葬られ、同時に、彼を死人の中からよみがえらせた神の力によって、彼と共によみがえらされたのである（コロサイ二・一一～一二）。

問三十四　使徒たちは、水のバプテスマがわたしたちを救うと教えましたか。

むかしノアの箱舟が造られていた間、神が寛容をもって待っておられた。その箱舟に乗り込み、水を経て救われたのは、わずかに八名だけであった。この水は**バプテスマ**を象徴するものであって、今や**あなたがたをも救う**のである。それは、イエス・キリストの復活による（中略）（第一ペテロ三・二〇～二一）。

問三十五　水のバプテスマだけで、わたしたちは救われるのですか。

このイエス・キリストは、水と血とをとおってこられたかたである。水によるだけではなく、**水と血と**によってこられたのである（第一ヨハネ五・六）。

問三十六　バプテスマによって救われるのなら、わたしたちはどの名によってバプテスマを受けなければならないのですか。

その**名**は**イエス**と呼ばれる。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から**救う**者となるからである。この人による以外に救はない。わたしたちを**救いうる名**は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである（マタイ一・二一、使徒四・一二）。

問三十七　使徒たちは、なぜ神性（父、子、聖霊）の名でなく、イエスの名によってバプテスマを授けたのですか。

キリストにこそ、満ちみちている神性のすべてが、かたちをとって宿っている。父は、御旨によって、御子のうちに、ご自分の満ちみちたものをすべて宿らせた（コロサイ二・九、一・一九）。

問三十八　父、子、聖霊の**名**が一つの名になることを示しているのは、どの聖句ですか。

主は全地の王となられる。その日には、主ひとり、**その名一つ**のみとなる（ゼカリヤ一四・九）。

問三十九　だれもが、イエスの名を主と認めなければならないのですか。

それは、**イエスの御名**によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、また、あらゆる舌が、「**イエス・キリストは主である**」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである（ピリピ二・一〇～一一）。

問四十　イエスの名による、罪のゆるしを得させるバプテスマを知らなかった人は、神の前でどのような立場にあるのですか。

もしわたしがきて彼らに語らなかったならば、彼らは**罪を犯さないですんだ**であろう。しかし今となっては、彼らには、その罪について言いのがれる道がない（ヨハネ一五・二二）。

問四十一　イエスは、そのみことばについて光を受けている人々に何と言われますか。

「もうしばらくの間、光はあなたがたと一緒にここにある。**光がある間に歩いて**、やみに追いつかれないようにしなさい。やみの中を歩く者は、自分がどこへ行くのかわかっていない。光のある間に、光の子となるために、光を信じなさい」。イエスはこれらのことを話してから、そこを立ち去って、彼らから身を隠された（ヨハネ一二・三五～三六）。

第二部　神性の奥義

問一　神性の奥義は、理解できるものですか。

神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において**知られていて**、明らかに認められる。したがって、彼らには弁解の余地がない（ローマ一・二〇）。

問二　神は、父と子の奥義をだれに隠されたのですか。

そのとき、イエスは聖霊によって喜びあふれて言われた、「天地の主なる父よ。あなたをほめたたえます。これらの事を**知恵のある者や賢い者**に**隠して**、幼な子にあらわしてくださいました。（中略）そして、子がだれであるかは、父のほか知っている者はありません。また父がだれであるかは、子と、父をあらわそうとして子が選んだ者とのほか、だれも知っている者はいません」（ルカ一〇・二一～二二）。

問三　神性の名が奥義であることについて、預言者のだれかが何か言っていますか。

ヤケの子アグルの言葉、すなわち託宣。（中略）天にのぼったり、下ったりしたのはだれか。風をこぶしの中に集めたのはだれか。水を着物に包んだのはだれか。地のすべての限界を定めた者はだれか。**その名は何か**。その子の名は何か。あなたはそれを言えるか（箴言三〇・一、四）。

問四　天に上り、また下ったのはだれだと、イエスは言われましたか。

天から下ってきた者、すなわち天にいる**人の子**のほかには、だれも天に上った者はない（ヨハネ三・一三）。

問五　上られたかたは、下られたかたと同じかたですか。

さて「上った」と言う以上、また地下の低い底にも降りてこられたわけではないか。降りてこられた者**自身**は、同時に、あらゆるものに満ちるために、もろもろの天の上にまで上られたかたなのである（エペソ四・九～一〇）。

問六　イエスは、ご自分が父であることを、弟子たちに現されましたか。

もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。しかし、今は父を知っており、またすでに父を見たのである。ピリポはイエスに言った、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下されば、わたしたちは満足します」。イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、**父**を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか」（ヨハネ一四・七～九）。

問七　イエスは、ご自分と父とが別々のふたりのかただと言われましたか。

わたしと**父**とは**一つ**である。そこでユダヤ人たちは、イエスを打ち殺そうとして、また石を取りあげた（ヨハネ一〇・三〇～三一）。

問八　この言葉を聞いて、ユダヤ人たちは、イエスがご自分を父なる神だと言っておられるのだと受け取ったのですか。

ユダヤ人たちは答えた、「あなたを石で殺そうとするのは、よいわざをしたからではなく、神を汚したからである。また、あなたは人間であるのに、自分を**神**としているからである」（ヨハネ一〇・三三）。

問九　子と父とが同じかたであると述べている預言の聖句はありますか。

ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの**男の子**がわれわれに与えられた。（中略）その名は、「（中略）大能の**神**、とこしえの**父**、平和の君」ととなえられる（イザヤ九・六）。

問十　神は、イエスと同じような、もうひとりのかたなのですか。

神は**霊**であるから、礼拝をする者も、霊とまこととをもって礼拝すべきである（ヨハネ四・二三～二四）。

問十一　イエスが人々と共に地上におられたあいだ、霊である神はどこにおられたのですか。

神はキリストのうちにいて、世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをされなかった（第二コリント五・一九）。

問十二　イエスは、人の姿をとった神だったのですか。

確かに偉大なのは、この信心の奥義である。**神は肉において現れ**、霊において義とせられ、御使たちに見られ、諸国民の間に伝えられ、世界の中で信じられ、栄光のうちに天に上げられた（第一テモテ三・一六）。

問十三　イエスが神であったなら、なぜ肉をそなえた人の姿をとられたのですか。

ただ、**死の苦しみ**のために、しばらくの間、御使たちよりも低い者とされたイエスを、わたしたちは見る。（中略）このように、子たちは血と**肉**とに共にあずかっているので、イエスもまた同様に、それらをそなえておられる。それは、死の力を持つ者、すなわち悪魔を、ご自分の死によって滅ぼすためである（ヘブル二・九、一四）。

問十四　イエスが肉体となった神であることを告げている聖句は、ほかにどこにありますか。

初めに言があった。言は神と共にあった。言は**神であった**。（中略）そして言は**肉体**となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた（ヨハネ一・一、一四）。

問十五　初めに天と地とを創造されたのは、だれですか。

はじめに**神**は天と地とを**創造された**（創世記一・一）。

問十六　イエスが創造者であったと、聖書のどこかに書いてありますか。

御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生れたかたである。万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな**御子にあって造られた**からである。これらいっさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである（コロサイ一・一五～一六）。

問十七　神が男と女とを創造されたのですか。

神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された（創世記一・二七）。

問十八　人を創造された神は、ふたり以上おられたのですか。

われわれの父は皆一つではないか。われわれを**造った神は一つ**ではないか（マラキ二・一〇）。

問十九　世界を造られたかたについて、使徒パウロは何と言いましたか。

この**世界**と、その中にある万物とを**造った神**は、天地の主であるのだから、手で造った宮などにはお住みにならない（使徒一七・二四）。

問二十　神は世界を造られたのち、その世に来られたことがありますか。

彼は世にいた。そして、世は彼によって**できた**のであるが、世は彼を知らずにいた。彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった（ヨハネ一・一〇～一一）。

問二十一　イエスが万物を造られたのなら、そのことは、イエスが神であることの証明になりますか。

家はすべて、だれかによって造られるものであるが、**すべてのものを造られた**かたは、神である（ヘブル三・四）。

問二十二　あがなう者と、万軍の主と、イスラエルの王とは、みな同じかたですか。

主、**イスラエルの王**、イスラエルを**あがなう者**、万軍の主はこう言われる、「わたしは初めであり、わたしは終りである。わたしのほかに神はない」（イザヤ四四・六）。

問二十三　イエスは、イスラエルの王と呼ばれましたか。

ナタナエルは彼（イエス）に答えた、「先生、あなたは神の子です。あなたは**イスラエルの王**です」（ヨハネ一・四九）。

問二十四　イスラエルの王は、ふたり以上おられることになるのですか。

主は全地の王となられる。その日には、**主ひとり、その名一つ**のみとなる（ゼカリヤ一四・九）。

問二十五　イエスが十字架につけられたとき、ピラトは十字架の上に何をかかげましたか。

イエスの上には、ギリシヤ、ラテン、ヘブルの文字で、『**これはナザレのイエス、ユダヤ人の王**』と書いた札がかけてあった（ルカ二三・三八、ヨハネ一九・一九）。

問二十六　神が形あるものとして造られ、その姿が人に見えるようになったことがありますか。

わたしより前に**造られた神はなく**、わたしより後にもない（イザヤ四三・一〇）。神を**見た**者はまだひとりもいない（ヨハネ一・一八）。あなたがたは、まだそのみ声を聞いたこともなく、そのみ姿を**見た**こともない（ヨハネ五・三七）。

問二十七　イエスを世につかわされたのは、だれですか。

あなたがたはわたしに近寄って、これを聞け。（中略）いま**主なる神**とその霊とが、わたしを**つかわされた**（イザヤ四八・一六）。

問二十八　イエスをつかわされた主なる神を、わたしたちはどのようにして見ることができますか。

イエスは大声で言われた、「わたしを信じる者は、わたしを信じるのではなく、わたしを**つかわされた**かたを信じるのであり、また、わたしを見る者は、わたしを**つかわされた**かたを見るのである」（ヨハネ一二・四四～四五）。

問二十九　神の満ちみちたものは、すべてキリストのうちにあるのですか。

彼（イエス）にこそ、**満ちみちている**神性のすべてが、かたちをとって宿っている（コロサイ二・九）。

問三十　アブラハムは、イスラエルの神をどの名によって知っていましたか。

わたしはアブラハム、イサク、ヤコブには**全能の神**として現れたが、主という名では、自分を彼らに知らせなかった（出エジプト六・三）。

問三十一　イエスは、ご自分が全能者であると言われましたか。

「わたしはアルパであり、オメガである。初めであり、終りである」。今いまし、昔いまし、やがてきたるべき者、**全能者**にして主なる神が、こう仰せになる（黙示録一・八）。

問三十二　イエスが全能の神であるなら、イエスはアブラハムを見られたのですか。

あなたがたの父アブラハムは、わたしのこの日を見ようとして楽しんでいた。そしてそれを見て喜んだ。（中略）よくよくあなたがたに言っておく。アブラハムの生れる前からわたしは、いるのである（ヨハネ八・五六、五八）。

問三十三　神は、ご自分が初めであり終りであると宣言されましたか。

主、イスラエルの王（中略）はこう言われる、「わたしは**初め**であり、わたしは**終り**である。わたしのほかに神はない」。「ヤコブよ、わたしの召したイスラエルよ、わたしに聞け。わたしはそれだ、わたしは**初め**であり、わたしはまた**終り**である」（イザヤ四四・六、四八・一二）。

問三十四　イエスは、ご自分が初めであり終りであると言われましたか。

わたしは彼を見たとき、その足もとに倒れて死人のようになった。すると、彼は右手をわたしの上において言った、「恐れるな。わたしは**初め**であり、**終り**であり、また、生きている者である。わたしは**死んだことはある**が、見よ、世々限りなく生きている者である。アァメン。そして、死と黄泉とのかぎを持っている」（黙示録一・一七～一八）。

問三十五　ヨハネは、天の御座に何人のかたが座っておられるのを見ましたか。

すると、たちまち、わたしは御霊に感じた。見よ、御座が天に設けられており、その御座に**ひとりのかた**が座しておられた（黙示録四・二）。

使徒的聖書問答

2026年11月23日版

著者　G・T・ベイウッド

制作　藤遥

発行　christian-classics-jp

公開　https://christian-classics-jp.github.io/site/apostolic-bible-reading/

原稿　https://github.com/christian-classics-jp/site/tree/master/books/apostolic-bible-reading

全文を、原文（Apostolic Bible Reading）からAIを使って翻訳しました。

訳文はCC0 1.0で公開しています。引用した聖書の本文は含みません。